

フェアプレイ  
インタビュー  
[競泳男子]  
坂井聖人選手



プロフィール  
生年月日：1995年6月6日  
出身地：福岡県

2016年  
リオデジャネイロ  
オリンピック  
200Mバタフライ  
銀メダル獲得!

目標を立てて、全力尽くす

初出場の夢の舞台で活躍

挫折乗り越え、全国一に

2016年リオデジャネイロ・オリンピックの競泳男子200メートルバタフライで銀メダルを獲得した坂井聖人選手。優勝したアメリカ競泳界のスーパースター、マイケル・フェルプス選手とは0秒04差、まさにタッチの差まで追い詰め、21歳で初出場した夢の舞台で輝きました。現在は早稲田大学を出て社会人選手となり、来年の東京オリンピックで金メダルを目指しています。

坂井選手が考えるフェアプレーとは、「常に何事にも全力を尽くす」。その思いは中学時代に挫折を乗り越えた経験から生まれました。2年生の時に階段から落ち、ひじを骨折。その影響もあり、思いうような結果が出せず、水泳をやめようとも思いました。しかし、監督の励ましに押され、1年後の全国中学校大会で優勝するという目標を立て、無我夢中で練習。その結果、3年生で見事に全国優勝



「選手みんなが同じ状況、同じ舞台、そして最高潮のところまで戦うフェアさを実感した」。自らは大会前、フェルプス選手がとなりで泳ぐ姿を思い描きながら猛練習に励み、最高の状態に仕上げました。

最近肩の痛みなどで本来の力がだせていませんが、東京オリンピックへの意欲は強く、「リオデジャネイロ・オリンピックは少し悔しい思いもしている。金メダルを目標にしっかりと取り組んでいく」と誓いました。



「フェアプレイ宣言」  
しました!!

FAIRPLAY STORY  
フェアプレイ  
ストーリー  
試合を楽しむために編み出した「いいね」のポーズ  
宮崎県立富島高等学校  
野球部



第101回 全国高等学校  
野球選手権大会に出場した  
宮崎県立富島高等学校野球部



2018年秋の九州大会ではミスが続いていた

勝たなきゃ...

試合の緊張で固くなってしまったのが原因だった



そんな活気のない様子を見かねた中川コーチはこう伝えた

中川 清治さん

戦に行くような顔で試合するな

野球をもっと楽しめ!



コーチのアドバイスを受けてみんなで考えたのが「いいね」のポーズ

好プレーをした仲間を褒めたり相手の好プレーにも「いいね」をする

そうすることで笑顔が増え悪いムードを断ち切れる

チームの心を一つにする「いいね」により苦しい時でもリラックスして試合に臨めるようになった

結果大会でも好成績を収められるようになったのだ

試合中でも野球を楽しむための工夫が良いプレーに繋がっている